

【日本史研究シリーズ】

美川 圭著

院政の研究

〔日本史研究シリーズ 1〕

■ A5判・クロス装・315頁

本体7,000円＋税

院政という政治形態が実質的意味をもった、平安後期から鎌倉末期までの約250年間を、一貫して論じた院政に関するかつてない研究書。公卿会議をはじめとする政務方式や裁判制度のあり方を、史料の博搜と緻密な実証により明らかにせんと試み、学界において激しい論争をまきおこした鋭利な問題作を所収。

ISBN978-4-653-03284-7 [96/11] [01/2]

南 基鶴著

蒙古襲来と鎌倉幕府

〔日本史研究シリーズ 2〕

■ A5判・クロス装・252頁

本体6,000円＋税

蒙古襲来という未曾有の対外的危機は、中世日本の政治史及び対外関係史の展開にいかなる作用を及ぼし、どのようにして鎌倉幕府の滅亡をもたらしたのか。幕府の対蒙古政策の性格を日本の政治社会体制の特性と関連づけて捉え、中世日本の対外関係のあり方と国際意識の新しい展開を、高麗との関係も含めて明らかにする等、新しい歴史像を提示した意欲作。

ISBN978-4-653-03285-4 [96/12] [01/4]

李 啓煌著

文禄・慶長の役と東アジア

〔日本史研究シリーズ 3〕

■ A5判・クロス装・301頁

本体7,000円＋税

文禄・慶長の役は単に朝鮮と日本の戦争ではなく、日本にとっては近世国家の創出にあたって生じたものであり、將軍権力の確立とも深く関連している。また朝鮮・明にとっては東アジアの国際秩序に対する日本の挑戦であった。三国の戦後処理をめぐる対立・葛藤を東アジア史の視点で掌握し、それぞれの国内情勢を踏まえて追求する。

ISBN978-4-653-03286-1 [97/1]

沈 箕載著

幕末維新 日朝外交史の研究

〔日本史研究シリーズ 4〕

■ A5判・クロス装・320頁

本体6,500円＋税

幕末維新期における日本政府（幕府・明治政府）の対朝鮮政策について、日本、朝鮮、そして鎖国下において対朝鮮貿易を独占した対馬藩（のちの厳原藩）の三者間がお互いいかなる認識を有し、かついかなる関係を築こうとしたかを軸に考証する。近代の日朝関係における大事件前夜を捉えた好著。

ISBN978-4-653-03308-0 [97/12]

仁藤敦史著

古代王権と官僚制

〔日本史研究シリーズ 6〕

■ A5判・クロス装・334頁

本体6,300円＋税

〈残部僅少〉

7世紀から9世紀に至る古代王権の性格を、王権制度や官僚制・法制を素材として明らかにする論考集。律令制の前史として大王による人格的支配の段階を重視し、古代国家成立後における天皇権力の絶対化と古代官僚制の成熟というプロセスを、王権制度と官僚制の視角から分析する。

ISBN978-4-653-03722-4 [00/5]